



宮司プレス 第百五十三号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和二年 三月 十九日

◇宮司の柴田です。 毎朝の御日供祭（おにっ

くさい）、宮司以下職員さんの輪番で御奉仕を

申し上げています。 ちなみに、月の半分が私

のお当番です。 今朝、御日供祭の御奉仕を終

えますと、もうすでに、朝明けでした。 朝明

けが、早くおとずれ、さらに、夜の帳（とぼり）

が降りてくるのもゆつくりとなってきました。

それもそのはずです、昨日から彼岸に入り、明

日は、春の最中（もなか）、お彼岸の中日（ちゅ

うにち）です。 その輪番の御日供祭の当番と

同じように、御社殿（ごしゃでん）を除く東西

の回廊（かいろう）や社務所（しゃむしょ）の

たたか）い日差しをうけて、時折そよぐ風は、

なんとも心地よきものです。 春も盛りとなり

ました。 江戸時代後期の儒学者（じゅがくし

や）、佐藤一斎（さとう いっさい）は、「以春

風接人 以秋霜肃己（春風をもって人に接し

秋霜をもって己（おのれ）を肅（しゅく）す）」

と論（さと）されました。 春風のさわやかさ

で人に接し、秋の霜の厳しさを己に向き合う、

人に優しく自分に厳しくということです。 な

かなか、たやすく実践（じっせん）することは、

困難を極（きわ）めますが、春風のようなさわ

やかさ、「いつも、上機嫌（じょうきげん）」で、

人に接することを心掛けたいものです。

◇前述（ぜんじゆつ）のとおり、明日は、春の

お彼岸の中日で、昼と夜の時間が同じでありま

す。 日光の象徴（しょうちよう）である天照

大御神（あまてらすおおみかみ）様が、つかさ

どられる昼と、月の光の象徴である月読命（つ

ります。 この春分の日は、国民の祝日ですが、古（いにしえ）も、「日忌（ひい）み」といって、お仕事を休みにしていました。 また、「日のお伴（とも）」といって、日の出から日没まで、お日様と一緒に終日（ひもすがら）歩くと、健康によいとされてきました。 いままでいうところの「セラピー」なのでしょう。 「世界はもうデジタル・イズ・エブリウェア（すべてのものがデジタル）になっている」と言われている現在社会であればこそ、目に見えない大きなもの、大自然の恵みによって、生かされて生きていくことを体感（たいかん）できる日ではないかとも思います。 宮司プレス百十三号にも記述（きじゆつ）しましたが、津田塾大学教授で、疫（えき）学者の三砂（みさご）ちづるさんは、「女が女になること」の著作のなかで、「我々は、単独でこの世に存在しているわけではなく、つながりのうちに、この自然の中で、許されています。 生かされている。 何か大きな存在の一部として存在している」と、書かれています。 新型コロナウイルスによる感染症は、急速に拡散し、「パンデミック」、世界的な大流行となつていきます。 さらに、ウイルスの変異も想定されています。 情報も経済も瞬時（しゆんじ）に地球を一周する時代ですから、未曾有（みぞう）の経済の低迷を招く可能性は否定出来ませんし、そのことは、今まさに進行中でもありま

ります。 この春分の日は、国民の祝日ですが、古（いにしえ）も、「日忌（ひい）み」といって、お仕事を休みにしていました。 また、「日のお伴（とも）」といって、日の出から日没まで、お日様と一緒に終日（ひもすがら）歩くと、健康によいとされてきました。 いままでいうところの「セラピー」なのでしょう。 「世界はもうデジタル・イズ・エブリウェア（すべてのものがデジタル）になっている」と言われている現在社会であればこそ、目に見えない大きなもの、大自然の恵みによって、生かされて生きていくことを体感（たいかん）できる日ではないかとも思います。 宮司プレス百十三号にも記述（きじゆつ）しましたが、津田塾大学教授で、疫（えき）学者の三砂（みさご）ちづるさんは、「女が女になること」の著作のなかで、「我々は、単独でこの世に存在しているわけではなく、つながりのうちに、この自然の中で、許されています。 生かされている。 何か大きな存在の一部として存在している」と、書かれています。 新型コロナウイルスによる感染症は、急速に拡散し、「パンデミック」、世界的な大流行となつていきます。 さらに、ウイルスの変異も想定されています。 情報も経済も瞬時（しゆんじ）に地球を一周する時代ですから、未曾有（みぞう）の経済の低迷を招く可能性は否定出来ませんし、そのことは、今まさに進行中でもありま

す。こちらにも、目には見えない「ウイルス」の恐怖にさらされています。三砂教授の言われるように、大きな存在の一部である私共は、今ある自分の命、これからの生活に、もつと謙虚に向き合うことが大切です。アメリカのシンクタンクである、ユーラシア・グループ社長のイアン・ブレイマー氏は、「金融市場も政治も当面は混乱するだろうが、今は落ち着いて日常生活を続けるのが最良のアドバイスだ。そして、手洗いも有効だ。」と述べられています。物理学者の寺田寅彦(てらだ とらひこ)さんも、「正しく恐れる」ことの大切さを警鐘(けいしょう)されました。

◇当宮の正面鳥居は、紀元二千六百年記念に建立(こんりゆう)されたものですが、鳥居の右の柱には、「日光照万民(にっこうしようばんみん)」、さらに、左の柱には、「月色清人心(げっしょくせいじんしん)」と刻まれています。その鳥居の柱に刻まれた言の葉に、寺田寅彦さんの仰(おつしや)る、「正しく恐れる」心掛けが示されていると思います。それは、私共の御先祖様が大切にしてこられた、「朝に祈り 夕べに感謝」という、「敬神生活」の心掛けにほかなりません。それがまさに、イアン・ブレイマー氏のアドバイスである、「落ち着いて日常生活を続ける」ことではないでしょうか。

◇月次祭(つきなみさい) 齋行(さいこう)の

過日の十五日に、「感染症流行鎮静祈願祭(かみせんしょうりゆうちんせいきがんさい)」も併(あわ)せて執行(しっこう)しました。さらに、翌日の十六日からは、御日供祭(おにつくさい)の祝詞(のりと)に引き続き、「鎮静祈願祭(ちんせいきがんさい)」の祝詞も奏上し、祈願(いん)申し上げます。一日も早い鎮静、「ピークアウト」を願うものです。そして、皆様方が、「いつも上機嫌」でお暮らしになられますよう、お祈り申し上げます。 御自愛ください。

◇二月の祭典行事会議等活動報告

▼月次祭

*二月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭

*二月一日

▼節分祭

*二月三日

▼初午祭

◆福浦稲荷神社 *二月九日

◆三井稻荷神社(彦島製錬)

◆下関三井化学 *二月二十一日

▼祈年祭(きねんさい)

◆彦島八幡宮 *二月十七日

◆六連島八幡宮 *二月二十五日

◆田の首八幡宮 *二月二十七日

▼朝粥会 *二月二十一日

▼横浜、ディエヌエーベイスターズ下関ファン集いの会 参拝

*二月二十二日

▼関係団体

◆彦島八幡宮リーグ新年会 *二月一日

◆神道会世話人会 *二月十五日

◆責任役員常任総代会 *二月十九日

◆維蘇志会役員会 *二月二十六日

▼下関西ロータリークラブ

◆例会 *二月五日

◆市内五R C合同例会 *二月二十六日

◆理事会 *二月五日

▼学校関係

◆あいさつ運動

*二月十日

◆西山小学校学校運営協議会

*二月十九日

◆西山小感謝の集い *二月二十一日

▼自治会関係

◆迫町自治会役員会 *二月二十日

◆迫町自治会役員研修旅行

*二月二十一日〜二十二日

※熊本県の地震対応の自治会(避難所の自主運営の自治会、益城町の被害視察、柴田宮司の生家の小熊野神社 参拝